

【第 132 回対策本部会議】 5 月 4 日

健康福祉部長／直近 1 週間の感染者数は 1,817 人、前週は 3,145 人。ゴールデンウィーク前からの減少傾向が続いている。連休中のため、医療機関の休診が影響している可能性もある。

年代別で見ると、20 代以下が約 5 割、40 代以下では約 8 割、70 代以上は 1 割未満。依然として、若い世代の感染が多い。

入院者は 140 人、病床使用率は 24.9%、うち中等症者は 42 人、中等症者用の病床使用率が 7.5%、重症者はいない。ホテル療養者 180 人、ホテル使用率は 29.3%、自宅療養者が 2,659 人。いずれも減少している。

高齢者の感染者数は少ないが、基礎疾患がある人たちも含めて、感染が拡大しないよう取り組んでいく。

1. 高齢者施設の感染対策の強化

4 月 27 日までにチェックリストと事例集を高齢者施設、障害者施設、医療機関等に送付し、再度、周知の徹底をお願いした。

クラスターが発生した高齢者施設には、保健監が早期に介入し、指導している。

2. 往診や外来医療体制の強化

往診を行う医療機関を増やす方向で、医師会と協議、調整中。

3. 高齢者への 4 回目ワクチン接種

4 月 27 日の厚生労働省ワクチン分科会で 4 回目の接種が了承された。対象は 60 歳以上と 18 歳以上の基礎疾患があり、重症化リスクが高いことを医師が認める人。

市町や医師会と協議を進め、早期に実施できるよう調整する。

知事／昨日は吉野ヶ里公園で鋤入れ式、本日は肥前山口駅の「エキ・キタ」オープニングセレモニーに参加した。特段の制限がかからないゴールデンウィークということで、多くの人で賑わっていた。そうした中でも、コロナ対策に携わる関係者、医療従事者に心から感謝を申し上げる。

佐賀県内における直近 7 日間の 10 万人あたりの年代別陽性者数

10 日連続で 1 週間前の同じ曜日の感染者数より減少している。

ゴールデンウィーク前は、10 代未満の感染が非常に多く、そこから家族単位で感染する現象があった。ゴールデンウィークに入り、10 代未満の感染者数が急激に落ち、それに伴い、各世代が減少傾向になっている。おそらく、学校が長期休暇に入り、学内で

の感染拡大がないからだと推測している。

また、ゴールデンウィークで病院が休診していることも影響しているのだろう。以上のことから、ゴールデンウィーク中のため、感染者数が低めにでている可能性は否めない。休み明けの状況を注視していく。

オミクロン株は、デルタ株に比べ弱毒化しているが、感染力は増している。今後、ウイルスがどのように収まるか、あるいはウイルスと折り合いをつけるような社会局面になるか。オミクロン株への対応方法を整理してほしいと、国に再三申し入れている。

佐賀県 病床使用率（病床全体：最大確保占有率）（21/4/1～22/5/4）

折れ線グラフが病床使用率、棒グラフは感染者数。今年に入ってから感染者数が非常に多い。デルタ株は、重症化しやすく病床がひっ迫していたが、オミクロン株になってからの病床使用率は、高くても40%超。本日は約25%なので、対応できている。

この感染者数の減少傾向が続けば、病床使用率はさらに下がると予測している。

ゴールデンウィーク前からの傾向と変わらず、20代以下の入院率は1%以下。70代以上の感染者数は、全体の1割以下だが、入院率は1/3以上。この傾向が変わらないので、高齢者対策が必要だということ。保健監を派遣して感染拡大防止に努める。

皆様には、引き続き、手指消毒、正しいマスクの着用、換気など基本的な感染予防対策をお願いします。

連休中にもかかわらず、医療現場をはじめ、各施設、保健所、ワクチン現場の皆さんの取り組みに感謝申し上げます。県民の皆様の連休を楽しみながら、感染症対策を徹底する姿に感謝している。誹謗中傷などは今後とも行わないように改めてお願いします。

現場で起きていること、さまざまなデータを分析し、コロナ対策に全力を尽くしたい。